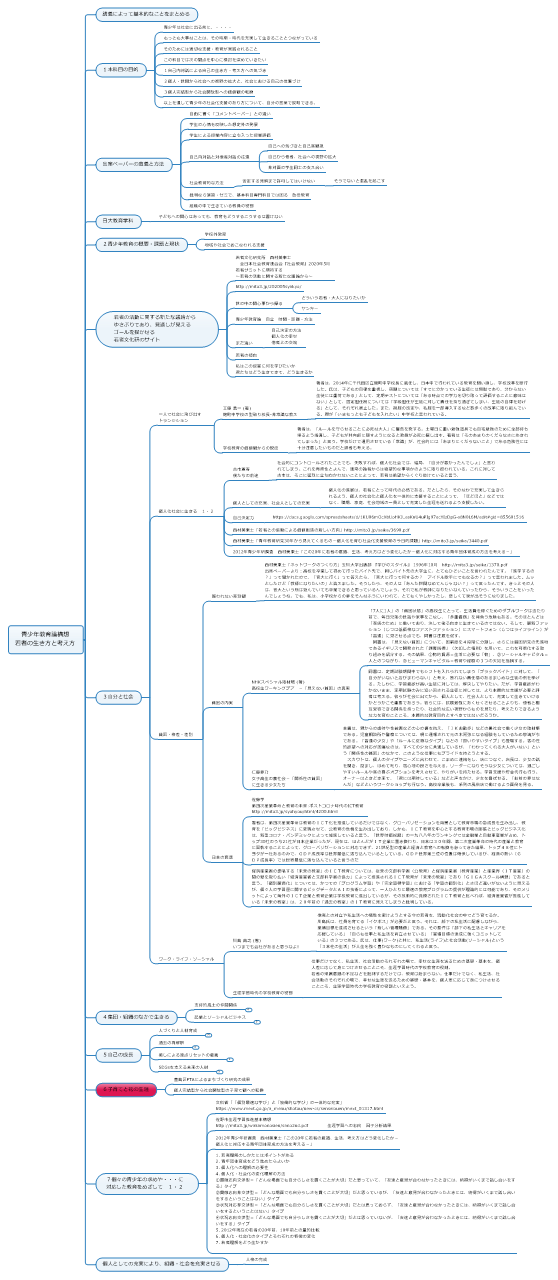
<https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1Dv-S9twVSgKT32jx0wLxI27BqvIABno0?lfhs=2>

青少年教育論構想 若者の生き方と考え方



1. 講義によって基本的なことをまとめる
2. １本科目の目的
   1. 青少年は社会に出る前に、・・・・
   2. もっとも大事なことは、その時期・時代を充実して生きることとつながっている
   3. そのためには適切な支援・教育が実践されること
   4. この科目では次の観点を中心に検討を深めていきたい
   5. １自己内対話による自己の生き方・考え方への気づき
   6. ２個人・世間から社会への視野の拡大と、社会における自己の位置づけ
   7. ３個人完結型から社会開放型への価値観の転換
   8. 以上を通して青少年の社会化支援のあり方について、自分の言葉で説明できる。
3. 出席ペーパーの意義と方法
   1. 自由に書く「コメントペーパー」との違い
   2. 学生の心情を反映した想定外の発展
   3. 学生による授業内容に立ち入った授業評価
   4. 自己内対話と対他者対話の往還
      1. 自己への気づきと自己客観視
      2. 自己から他者、社会への視野の拡大
      3. 非対面の学生同士の支え合い
   5. 社会教育的な方法
      1. 否定する見解まで許可してはいけない
         1. そうでないと混乱を起こす
   6. 批判なら演習・ゼミで、基本科目専門科目では困る　放任教育
   7. 組織の中で生きている教員の役割
4. 日大教育学科
   1. 子どもへの関心はあっても、教育をどうするこうするは書けない
5. ２青少年教育の概要・課題と現状
   1. 学校外教育
   2. 地域や社会でおこなわれる支援
6. 若者の活動に関する新たな議論から ゆさぶりであり、見通しが見える ゴールを描かせる 若者文化研のサイト
   1. 若者文化研究所　西村美東士 　全日本社会教育連合会『社会教育』2020年5月 若者サミットに期待する ～若者の活動に関する新たな議論から～
   2. http://mito3.jp/202005syakyo/
   3. 世の中の関心事から探る
      1. どういう若者・大人になりたいか
      2. ヤンキー
   4. 青少年教育論　自立　時間・距離・方法
   5. まだ遠い
      1. 自己決定の方法 個人化の幸せ 他者との交流
   6. 若者の傾向
   7. 私はこの授業に何を学びたいか 君たちはどう生きてきて、どう生きるか
7. ３自分と社会
   1. 一人で社会に飛び出す トランジション
      1. 工藤 勇一 (著) 麹町中学校の型破り校長-非常識な教え
         1. 著者は、2014年に千代田区立麹町中学校長に就任し、日本中で行われている教育を問い直し、学校改革を断行した。氏は、子どもの自律を重視し、宿題については「すでに分かっている生徒には無駄であり、分からない生徒には重荷である」として、定期テストについては「ある時点での学力を切り取って評価することに意味はない」として、固定担任制については「学級担任が生徒に対して責任を持ち過ぎてしまい、生徒の自律を妨げる」として、それぞれ廃止した。また、制服の改定や、私服を一部導入するなど数多くの改革に取り組んでいる。親が「いまもっとも子どもを入れたい」中学校と言われている。
      2. 学校教育の価値観からの脱皮
         1. 著者は、「ルールを守らせることに必死な大人」に警告を発する。土曜日に重い勉強道具でも自宅勉強のために全部持ち帰るよう指導し、子どもが共有部に隠すようになると教員が必死に探し出す。著者は「そのあまりのくだらなさにあきれてしまった」と言う。学校だけで通用させている「常識」が、社会的には「あまりにくだらないこと」である危険性には十分注意したいものだと評者も考える。
   2. 個人化社会に生きる　１・２
      1. 古市憲寿 僕たちの前途
         1. 社会的にコントロールされたことでも、失敗すれば、個人化社会では、結局、「自分が悪かったんでしょ」と言われてしまう。これを再帰性とよんで、通常の論者からは絶望的な事項かのように取り扱われている。これに対して古市は、そこに猛烈に立ち向かわないことによって、若者は絶望からくぐり抜けていると言う、
      2. 個人としての充実、社会人としての充実
         1. 個人化の進展は、若者にとって時代の必然である。だとしたら、そのなかで充実して生きられるよう、個人の社会化と個人化を一体的に支援することによって、「ほどほと」などではなく、職場、家庭、社会地域の一員として充実した生涯を送れるよう支援したい。
      3. 自己決定力
         1. https://docs.google.com/spreadsheets/d/1KU06mOcXbUoHKJ\_esKnU4uPIg97ecYIzDpG-s8N0L6M/edit#gid=855601516
      4. 西村美東士「若者との協働による価値創造の新しい方向」http://mito3.jp/seika/3690.pdf
      5. 西村美東士「青年教育研究30年から見えてくるもの－個人化を育む社会化支援教育の今日的課題」http://mito3.jp/seika/3440.pdf
      6. 2012年青少年研調査　西村美東士「この20年に若者の意識、生活、考え方はどう変化したか－個人化に対応する青年団体育成の方法を考える－」
   3. 貧困・格差・差別
      1. 報われない差別観
         1. 西村美東士「ネットワークのつくり方」玉川大学出版部 『学びのスタイル』 1996年10月　http://mito3.jp/seika/1370.pdf 出席ペーパーより：高校を卒業して初めて行ったバイト先で、同じバイト先の大学生に、とてもひどいことを言われたんです。「進学するの？」って聞かれたので、「音大に行く」って答えたら、「音大に行って何するの？　アイドル歌手にでもなるの？」って言われました。ムッとしたけど「教師になりたいの」と答えました。そうしたら、その人は「あんた世間なめてんじゃない？」って言ったんです。きっとその人は、音大という所は遊んでいても卒業できると思っているんでしょう。それで私が教師になりたいなんていったから、そういうことをいったんでしょうね。でも、私は、小学校からの夢をそんなふうにいわれて、とてもくやしかったし、悲しくて涙が出そうになりました。
      2. 貧困の内実
         1. NHKスペシャル取材班 (著) 高校生ワーキングプア　－「見えない貧困」の真実
            1. 「7人に1人」の「貧困状態」の高校生にとって、生活費を稼ぐためのダブルワークは当たり前で、毎日兄弟の世話や家事をこなし、「多重債務」を背負う危険もある。そのほとんどは「家族のため」に働いており、決して後ろ向きに生きているのではない。そして、最新ファッション（じつは低価格なファストファッション）にスマートフォン（じつはライフライン）が「普通」に見させる点でも、同書は注意を促す。 　同書は、「見えない貧困」について、困窮度を４段階に分類し、さらには貧困研究の先進地であるイギリスで開発された「剥奪指標」（欠如した権利）を用いて、これを可視化する取り組みを紹介する。その結果、①物的資源＝生活に必要な「物」、②ソーシャルキャピタル＝人とのつながり、③ヒューマンキャピタル＝教育や経験の３つの欠如を指摘する。
            2. 同書は、定期試験期間中でもシフトを入れられてしまう「ブラックバイト」に対して、「自分がいないと店がまわらない」と考え、断れない責任感のあるまじめな生徒の例を挙げる。たしかに、学習意欲が高い生徒に対しては、解決してやりたい。だが、学習意欲がわかないまま、定期試験のみに追い回される生徒に対しては、より本質的な支援が必要と評者は考える。彼らが社会に出てから、個人として、社会人として、充実して生きていけるかどうかこそ重要であろう。彼らには、試験勉強にあくせくさせることよりも、他者と相互受容できる関係を持ったり、社会的な広い視野からものを見たり、考えたりできるような力を育むことこそ、本質的な教育目的とすべきではないだろうか。
         2. 仁藤夢乃 女子高生の裏社会－「関係性の貧困」に生きる少女たち
            1. 本書は、親からの虐待や性被害などの心の傷を抱え、「ＪＫお散歩」などの裏社会で働く少女の取材集である。児童相談所や警察については、親に通報されて元の木阿弥になる経験をしているため敬遠がちである。「普通の少女」や「ルールに従順なタイプ」などの「扱いやすいタイプ」も登場する。客の性的欲望への対応が苦痛なのは、すべての少女に共通しているが、「わかってくれる大人がいない」という「関係性の貧困」のなかで、このような仕事にもプライドを持とうとする。 　スカウトは、個人のタイプやニーズに合わせて、こまめに連絡をし、店につなぐ。店長は、少女の話を聞き、励まし、ほめて叱り、居心地の良さを与える。リーダーになりそうな少女については、過ごしやすいルールや客の喜ぶオプションを考えさせて、やりがいを持たせる。学習支援や貯金代行も行う。オーナーはときどき来て、「君には期待している」などと声をかけ、少女を喜ばせる。「お前の夢はなんだ」などというワークショップも行なう。高校卒業後も、系列の風俗店で働けるよう面倒を見る。
      3. 日本の衰退
         1. 佐藤学 第四次産業革命と教育の未来:ポストコロナ時代のICT教育 http://mito3.jp/syohyou/html/4200.html
         2. 著者は、第四次産業革命は教育のＩＣＴ化を推進しているだけではなく、グローバリゼーションを背景として教育市場の急成長を生み出し、教育を「ビッグビジネス」に変貌させて、公教育の危機を生み出しており、しかも、ＩＣＴ教育を中心とする教育市場の膨張とビッグビジネス化は、新型コロナ・パンデミックによって加速していると言う。「世界時価総額」の一九八八年のランキングでは金融業と自動車産業が占め、トップ30社のうち21社が日本企業だったが、現在は、ほとんどがＩＴ企業に置き換わり、日本は３０年間、第二次産業革命の時代の産業と教育に固執することによって、グローバリゼーションに対応できず、21世紀型の産業と経済と教育への転換を怠ってきた結果、トップ４８位にトヨタが一社あるのみで、ＧＤＰ成長率は世界最低に落ち込んでいるとしている。ＧＤＰ世界第三位の位置は確保しているが、経済の勢い（ＧＤＰ成長率）では世界最低に落ち込んでいると言うのだ
         3. 経済産業省の提唱する「未来の教室」のＩＣＴ教育については、従来の文部科学省（公教育）と経済産業省（教育産業）と産業界（ＩＴ産業）の間の壁を取り払い「経済産業省と文部科学省の協力」によって推進されるＩＣＴ教育が「未来の教室」であり「ＧＩＧＡスクール構想」であると言う。「個別最適化」については、かつての「プログラム学習」や「完全習得学習」における「学習の個別化」とさほど違いがないように見えるが、個々人の学習歴に関するビッグデータとＡＩの技術によって、一人ひとりに最適の教育プログラムの提供が理論的には可能であり、そのメリットによって海外のＩＣＴ企業と教育企業は学校教育に進出しているが、その技術的に洗練されたＩＣＴ教育と比べれば、経済産業省が推進している「未来の教室」は、２０年前の「過去の教室」のＩＴ教育に見えてしまうと批判している。
   4. ワーク・ライフ・ソーシャル
      1. 川島 高之 (著) いつまでも会社があると思うなよ!
         1. 他者との対立や私生活への犠牲を避けようとする今の若者を、流動化社会の中でどう育てるか。川島氏は、社員を育てる「イクボス」が必要だと言う。それは、部下の私生活に配慮しながら、業績目標を達成させるという「新しい管理職像」である。その要件は「部下の私生活とキャリアを応援している」「自らも仕事と私生活を両立させている」「業績目標の達成に強くコミットしている」の３つである。氏は、仕事(ワーク)と共に、私生活(ライフ)と社会活動(ソーシャル)という「３本柱の生活」が人生を強く豊かなものにしてくれると言う。
      2. 生涯学習時代の学校教育の役割
         1. 仕事だけでなく、私生活、社会活動のそれぞれの場で、幸せな生涯を送るための基礎・基本を、個人差に応じて身につけさせることこそ、生涯学習時代の学校教育の役割。 若者の帰属意識の不足などを批判するだけでは、教育は始まらない。仕事だけでなく、私生活、社会活動のそれぞれの場で、幸せな生涯を送るための基礎・基本を、個人差に応じて身につけさせることこそ、生涯学習時代の学校教育の役割といえよう。
8. ４集団・組織のなかで生きる
   1. 支持的風土の仲間関係
      1. みんなぼっちからの脱却
         1. 篠田桃紅 一〇三歳になってわかったこと ～人生は一人でも面白い～
            1. 「自由と個性を尊重するから孤独であり、コミュニケーションが大切」、孤立ではなく、人と交わらないのでもなく、「混じらない」「よりかからない」シングルライフに徹する
      2. 居場所と第三の支援
   2. 起業とソーシャルビジネス
      1. 自分の「真実」を実現する
         1. 事実は小説よりも奇なり
      2. 駒崎弘樹 社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門
         1. 貧困や格差、高齢化など、私たちを取り囲む社会課題は尽きない。そうした課題を解決するための手段の1つとして注目されているのが「ソーシャルビジネス」だ。 病児保育を行う認定NPO法人「フローレンス」を2004年にたちあげ、日本の社会起業家の若き旗手としてニューズウィーク「世界を変える社会起業家100人」にも選ばれた著者。 本書では、起業当初から現在に至るまで、10年以上にわたる著者の軌跡を初めて具体的に明かしていく。 社会課題を解決するための「仕組みづくり」はどうしたらいいのか。お金はどうやって回していくか。人を集めるには、行政とうまく付き合う方法……など、超実践的なノウハウ満載。「社会を変えたい」と願うすべての人、必読。
         2. サービスインの前にはウェブサイトをスタートさせる。これがないと、利用者に、どこか頼りない団体との印象を与えかねない。助成金などでお金が入ったころ、30万～50万円くらいでつくれるものにする。あるいは社会人プロボノにお願いして、タダ同然でつくってもらえるのならば、それに越したことはない。ＮＰＯやソーシャルビジネスにかぎらず、起業の鉄則は、最初は小さく、どんどん大きく育てていく。いかにお金をかけないで、いいものをつくっていけるかを考えるのが重要だ。なお、ウェブサイトをつくっても、フェイスブックとツイッターは生かしておこう。一方、ブログはウェブサイトに移行させるのがいいだろうと言う。
9. ５自己の成長
   1. 人づくりと人材育成
      1. 人を使い潰すブラック企業には先がない
         1. 職業能力向上はすべての若者の望み
      2. 「資質の向上」はウソ
         1. 廣瀬裕一 「教員の資質向上」でいいのか
         2. 私は、ここで、「能力開発を効果的に進め、結果として対象者の能力を発揮できるような環境を整える」という「能力管理の目的」をもっと鮮明に、という森和夫の観点を想起する。自律的な「研究と修養」の責務は個人にあるのだが、その環境を整える「能力管理」の責任は、組織、チームにあるのである。
            1. 森和夫『実践現場の能力管理:生産性が向上する人材育成マネジメント』日科技連出版社、2020年8月、西村美東士書評 http://mito3.jp/syohyou/html/4074.html
      3. クドバスとラダー
      4. 暗黙知の伝承
      5. 西村美東士「若手社員育成の課題と方法－「組織の中で個性を発揮する人材」に育てるには」
      6. 「まちづくりは人づくり」への疑問
         1. http://mito3.jp/hitodukuri.html
         2. 第五期豊島区生涯学習推進協議会 「つどう、つながる、つなげる、つくりだす」豊島区生涯学習センター機能の実現に向けての意見書
         3. 「人づくり」ということがよく言われますが、行政などが人をつくるのではありません。子どもから大人まで、自らが自らをつくっているとわれわれは考えます。人材育成の本質は、「人づくり」ではなく「われづくり」にあるといえます。同時に、区民一人一人の自己の充実のための学びは、人によって支えられ、地域での区民同士の学びあいと支えあいは、この意見書がめざす生涯学習センターをはじめとする社会的支援機能によって支えられると考えます。
         4. 生涯学習は「人づくり」ではなく「我づくり」
   2. 過去の再解釈
      1. 不合理な信念
      2. 自己変革
         1. ロボットからの脱出
      3. 過去と他人は変えられない、変えられるのは、未来と自分
   3. 癒しによる原点リセットの意義
      1. 子ども時代の宝物
      2. 青少年研調査「過去を振り返っていろいろ思い出しながら過ごしている」19.7%
   4. SDGsを支える未来の人材
      1. 開発自体への疑義
         1. 斎藤幸平　人新世(ひとしんせい)の「資本論」
            1. 生産性拡大自体への疑義
         2. https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/67256?page=3
         3. 「私たちの生活」という観点からすれば、成長を続けなければならない理由はないんですよね。むしろ、これ以上の成長が、地球環境を破壊するようになっている。今、必要なのは気候危機を前にした成長を前提としない制度設計です。
10. ６子育てと花の生涯
    1. 豊島区PTAによるまちづくり研究の成果
    2. 個人完結型から社会開放型の子育て観への転換
11. ７個々の青少年の求めや・・・に 対応した教育をめざして　１・２
    1. 文科省「「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実」 https://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/new-cs/senseiouen/mext\_01317.html
    2. 佐野市生涯学習推進基本構想 http://mito3.jp/wakamonosien/sano2nd.pdf
       1. 生涯学習への志向　因子分析結果
    3. 2012年青少年研調査　西村美東士「この20年に若者の意識、生活、考え方はどう変化したか－個人化に対応する青年団体育成の方法を考える－」
    4. 1. 若者理解のしかたにはポイントがある 2. 青年団体育成をどう進めたらよいか 3. 個人化への理解の必要性 4. 個人化・社会化の変化理解の方法 ①貫徹志向交渉型＝「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切」だと思っていて、「友達と意見が合わなかったときには、納得がいくまで話し合いをする」タイプ ②貫徹志向非交渉型＝「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切」だと思っているが、「友達と意見が合わなかったときには、納得がいくまで話し合いをするということはない」タイプ ③状況対応非交渉型＝「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切」だとは思っておらず、「友達と意見が合わなかったときには、納得がいくまで話し合いをするということはない」タイプ ④状況志向交渉型＝「どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切」だとは思っていないが、「友達と意見が合わなかったときには、納得がいくまで話し合いをする」タイプ 5. 2012年現在の若者の20年前、10年前との量的比較 6. 個人化・社会化のタイプとそれぞれの特徴の変化 7. 若者理解をどう生かすか
12. 個人としての充実により、組織・社会を充実させる
    1. 人格の完成